

第 96 回メーデー中央大会 ―労働者の祭典―

未来に向かって平和を求め続ける決意を新たにす

4 月 26 日、東京・代々木公園で、第 96 回メーデー中央大会が開催され、約 2 万 9 千人の働く仲間やその家族が一堂に会し、労働条件の改善、人権の確立、平和への思いなどを共有した。

また、出展エリアでは、70 以上の団体が活動紹介や物品販売などを行ったほか、子どもイベントや献血活動、プロ野球選手会の協力によるキャッチボール教室・スピードガン体験も行われた。特設コーナーでは「能登復興支援・出張輪島朝市」「食料・文房具の寄付受付」「フリーランスのイラストレーターによるチャリティー似顔絵コーナー」「平和コーナー」が実施された。

戦後 80 年目を踏まえて

中央式典は、開会宣言で始まり、芳野友子中央実行委員長（連合会長）は、今年が戦後 80 年の節目にあたることを踏まえ「今日ほど『平和なくして労働運動なし』『民主主義なくして労働運動なし』ということを実感できる日はなく、先人への敬意と感謝を表し、今を生きる私たちが、未来に向かって平和を求め続ける決意を新たにすメーデーとしたい」と述べた。

また、2025 春季生活闘争については「昨年に引き続き高水準での賃金改善、とりわけ中小・小規模事業所において前回は上回る賃上げ率となり、確実に格差は縮まっている。働くことが単に生活の糧を得るだけでなく、一人ひとりの人生そのものであり、自己実現の一つとして位置付けられる」と述べた。

来賓あいさつでは、政府を代表して石破茂内閣総理大臣が「わが国における経済政策の最重要課題は賃上げであり『賃上げこそが成長戦略の要』との認識の下、物価上昇に負けない賃上げを必ず実現する。きちんと賃金上がり、下請けの方にも適切に代金が払われ、新しい商品・サービスを開発するための投資は決して惜しまない付加価値向上型の経済をめざす」と述べた。

最後に、戦後・被爆 80 年、次代につなぐ平和の特別決議（案）ならびにメーデー宣言（案）を満場の拍手で採択し、玉那覇仁メーデー常任実行委員（航空連合）のガンバロー三唱で閉会した。

「海員だより」